



## ①動かない? アフリカの大きな鳥

## — ハシビロコウ —

野生では水辺でじっと動かず、魚を待ち伏せして捕まえます。長い4本指の足で湿地でも沈まず歩け、広げると2メートルにもなる翼で飛ぶこともできます。ほとんど鳴かず、代わりにおじぎやクラッタリング(くちばしをカタカタ鳴らす)でコミュニケーションをとります。当園のじっと(オス)としずか(メス)も、歩いたり、羽ばたくなどの動く様子が見られます。

まだナゾの多い鳥で、動物園での繁殖はむずかしく、国内でヒナが誕生したことはありませんが、唯一しづ

かは卵を産んだことがあります。残念ながら無精卵でしたが、今も巣をつくるなど、繁殖の希望はあります。

毎朝、部屋から放飼場に出てエサのコイをもらいます。丸のみにする姿が見られるかもしれません。

②個性ゆたかなカップル  
— カリフォルニアアシカ —

メスのマリンはショウトレーニングを積んだ経験があり、とても従順。飼育係さんの指示に従って、実は握手や倒立も上手にできます。一方オスのチャイムは食いしん坊で遊び好き。投げてもらった魚を口でキャッチするのが上手で、高く投げるよう催促する仕草も見られ、成功して食べられるとご満悦です。

アシカは1回の息継ぎで10分以上潜水でき、プールの中を気持ちよさそうに泳ぐ姿が見られます。時々水から頭を出して「ガウガウ」とうがいのような仕草をするのはオスのチャイム、「今日も絶好調!」と言っているかのようです。夜はプール横にある白く広い石のベッドで就寝します。夕方の閉園間近には、ベッドに仲良く並ぶ2頭の姿が見られるかもしれません。



★それぞれの動物がいる場所はウラの地図をごらんください

## ③海の鳥を真水で育てるには…

## — ケープペンギン —

南アフリカ共和国、ナミビア共和国の沿岸部に生息しているアフリカ大陸で唯一のペンギン。野生では大集団で暮らします。

当園でのエサはアジやサバを1羽あたり1日に500gほど食べます。体重は3kgぐらいなのでかなりの大食漢。ペンギンは捕食のため海中に長くいることから、余分な塩分を排出する塩類腺をもっていますが、プールは井戸水でエサの魚も流水解凍の際に塩分が抜けてしまうので、ナトリウム欠乏症にならないよう、解凍後に再度塩水に漬けてから与えています。

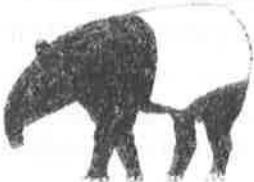


飼育下の寿命は25年程度と言われていますが、1羽だけ、人工飼育されたためかんちゃんと名づけられ人慣れしたペンギンは今年33歳。元気に長生きしてほしいものです。

④大きな体に短いしっぽ  
— マレー・バク —

マレー半島やスマトラ島などの水辺のある森に単独でくらし、泳ぎもうまく、天敵が来ると水の中に入ります。当園生れのユメタ(16才)は昨年3月に多摩動物公園より来園したカナエ(3才)と妊娠中。妊娠期間は400日前後と長いので、うまくいっても赤ちゃんを見られるのはしばらく先になりそうです。

草や木の葉、くだものなどを一日に20kgほど食べます。鼻は上唇と一体となって、食べるときなどに自在に動きます。ゆっくり観察すると、意外に可愛い鳴き声を聞けることもあります。池に入って潜水するを見られることもあります。オスはオシッコを後ろにスプレーして匂いづけします。森林開発などにより生息域が減少し、絶滅の危機にひんしています。



## ⑤当園のモモコが上野で活躍

### —ニシゴリラ—

当園のシンボルマークとなっているゴリラはアフリカ中部に生息する絶滅危惧種で、日本では6園20頭しか飼育されていません。上野動物園にいる千葉市所有のモモコがたくさんの子を出産し繁殖に貢献してくれています。

自然界ではオス中心の群れで暮し、胸を叩いて威嚇するドラミングはオスメス共やりますが、高齢になるとしなくなります。肌や毛が黒いのは紫外線の強い生息地の影響でメラニン色素によるもの。おとなのオスの頭頂部が長いのは頭蓋骨がとがっているからで、頭からあごにかけて筋肉がついており、噛む力が強く木の実や芋類など堅いものを食べるために適しています。動物科学館2階に頭の骨格標本がありますのでご覧ください。

体は大きいが肉は食べず、ほぼ完璧な草食です。園でのエサは野菜が主で果物は少なめ。ほかにキャベツをお皿に見立ててヨーグルトやゆで卵もたまに与えています。



## ⑥よろいを着た小さな動物

### —ムツオビアルマジロ—

アルマジロは主に南アメリカに生息していて20種ほどいます。背中のよろいの帯の数が種類ごとに違い、6本あるのがムツオビアルマジロです。

アルマジロというと丸くなり敵から身を守るイメージがありますが、完全に丸くなるのは2種だけで、ムツオビは丸くなることはなく、穴や茂みの中に逃げるので意外と素早く動き回ります。

硬い甲羅をよく見ると毛が生えています。その甲羅はチャランゴというギターのような楽器に使われることもあるそうです。



普段は展示場の土管の中で寝ていることが多いですが、いったん出てくるとガラスのそばを歩き回り、近くで見ることができます。よく見ると発見がたくさんあるムツオビアルマジロに会いに来てください。

★動物科学館1階の夜行性動物舎は昼夜が逆転しています  
早朝に照明を落とし、閉園時刻の少し前から明るくなります。

★それぞれの動物がいる場所は下の地図をごらんください

## ⑦オスだと思ったらメスだった

### —ブチハイエナ—

2020年に南アフリカから来園した2頭は、オスのカロアとメスのエサンドワとして本紙38号でも紹介しました。先に来ていたメスのイトウバとともに繁殖を目指しましたが、昨年、カロアもメスだとわかり、期待は1歩後退してしまいました。その経緯は…

2021年8月からイトウバとカロアのペアリングの試みを始め、フェンス越しのお見合いや同居を8か月間にわたって繰り返したもの、イトウバがカロアを攻撃する事態が続き、繁殖につながる行動が見られなかっただけ、同性では?という疑問が浮かびました。そこで岐阜大学の協力でカロアの毛根細胞と口腔細胞のPCR検査を受けたところ、メスの可能性が高いことが判明。さらに北海道大学の協力で超音波検査を受けて、子宮と卵巣があることが確認されました。

体の構造が特殊で、外見からは性別が判定できないハイエナ。寒い日に池に飛び込んだり、下を向いて変な声で鳴いたり、その行動もフシギ感満載です。



レッサーパンダの風太が20歳になりました

かなり長寿ですね！

おじいさんになれた風太を

これからもかわいいから？

くださいね！

④フレーハウ

(平原ゾーン)

